

生徒会活動

自主自律の校是を體現しながら、 想定外の時代を生きる力を身につける

宮崎県立宮崎大宮高校

「異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組む」教育活動である生徒会活動。宮崎県立宮崎大宮高校では、生徒会が主体となり、校是に掲げられる「自主自律」の精神を継承している。教師や保護者と協働しながら行われる生徒会活動の実践と、そこで育まれる資質・能力について、同校の生徒と教師に話を聞いた。

教師、保護者とともに 学校のあり方を考える

旧制中学校を前身とし、創立132年を迎えた宮崎県立宮崎大宮高校。脈々と受け継がれている伝統の中で、宮崎大宮高校としてのあり方を體現する大きな役割を果たしているのが生徒会活動だ。

同校にとって生徒会活動は、役員となった一部の生徒に偏った活動ではなく、役員などではない生徒も生徒会の一員としての自覚を持ち、学校生活の充実と向上を図るために、主体的、自治的に行われる活動である。新入生オリエンテーションや歓迎遠足、文化祭や体育大会など、ほ

とんどの学校行事において、生徒から実行委員を募り、企画・運営を生徒が主体となって行う。さらに、準備、渉外、広報、当日の進行など、スタッフとしてかわる生徒も募集する。スタッフを希望する生徒は非常に多く、学校行事によっては、抽選や志望理由を基にした選考が行われるほどだ。

生徒会をまとめ、生徒全体としての意思決定へと導くのが、総務委員会と呼ばれる組織で、生徒会長にあたる総務委員長を筆頭に、書記、会計、幹事など、8人の生徒で構成される。総務委員会は各行事の実行委員会と連携して、その企画・運営にあたるが、これからの高校生活のあ

り方を教師や保護者と話し合うのも、同校の総務委員会の特徴だ。例えば近年は、スマートフォンなどの携帯電話の校内持ち込みや朝の課外学習などについて、総務委員会が保護者や教師と話し合い、その内容を生徒総会でさらに議論し、再度、保護者や教師との合意形成を図った。スマートフォンなどの携帯電話の校内持ち込みについては、2020年度途中から認められるようになったが、そのルールは全生徒対象のアンケート結果を踏まえて、総務委員会で作成し、PTAに諮って採用されたものだ。時には、同校の生徒会活動をよりよくするために、総務委員会の生徒は先進校を視察する。

宮崎県立宮崎大宮高校

- ◎「自主自律」「稚心を去れ」「質実剛健」を校是に掲げ、知・徳・体の調和のとれたたくましい人材の育成を目指す。2020年に文部科学省「WLL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業における『カリキュラム開発拠点校』に指定。
- ◎設立 1889（明治22）年
- ◎形態 全日制／普通科・文科情報科／共学
- ◎生徒数 1学年約360人
- ◎2020年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、東京大、京都大、大阪大、九州大、宮崎大などに213人が合格。私立大は、慶應義塾大、法政大、明治大、同志社大などに延べ190人が合格。
- ◎URL <http://www.miyazaki-ced.jp/miyazakomiyah/index.html>

生徒会活動への憧れが 同校を志望する動機に

「生徒会は大宮の宝」。それは、同



1年生
迫井颯汰
 さこい、そうた
 総務委員会幹事



2年生
岩井亜由美
 いわい、あゆみ
 総務委員会総務委員長

生徒



生徒会担当・生徒指導部
川崎真琴
 かわさき、まこと
 教職歴25年。同校に赴任して4年目。保健体育科。



生徒指導主事・主幹教諭
渡部祐一
 わたなべ、ゆういち
 教職歴37年。同校に赴任して4年目。英語科。

教師

校が中学生向けに発信する学校紹介媒体などで、度々登場する言葉だ。生徒の主体的、自治的な行動を尊重する同校の姿勢は、21年度の学校案内の巻頭言で、中学生にメッセージを贈っているのが総務委員長であることから分かる。そうした「生徒会は大宮の宝」という学校風土は、同校を志望する中学生にも、学校の魅力として確実に伝わっていると、20年6月から第131期総務委員会

の委員長を務めている2年生の岩井亜由美さんは言う。

「中学3年生の時に参加した宮崎大宮高校のオープンスクールで、生徒会や実行委員会の先輩たちが自分たちでプログラムを進行する立派な姿を見て驚きました。私は、生徒一人ひとりがよい集団をつくろうとする意識を持つ宮崎大宮高校の総務委員会に入りたくて、この学校を第一志望にしました」

第131期総務委員会の幹事として、岩井さんとともに活動した1年生の迫井颯汰さんも、「中学校の生徒会では、生徒がすることは先生が決めていました。でも、宮崎大宮高校では、自主自律の校是の下、何をするかを生徒同士で話し合っ、自由に決められます」と、同校の生徒会でのやりがいと責任を語る。

「新入生オリエンテーションなどで新入生に話す内容も、生徒だけで考えています。先生から任せられているから、みんなのためになる活動しようという意識になります。生徒がこれほど自由に活動できるのは、生徒がしたいことと先生たちが生徒にしてもらいたいことが一致しているからだと思います」（迫井さん）

生徒主体で進める学校行事における生徒会の役割

1 新入生オリエンテーション

20年度は実施がかなわなかったが、例年、入学式実施前の新1年生を対象に、校歌・応援歌の練習、クイズ形式で進行する校内オリエンテーション、部活動紹介などを行う。新入生への歌唱指導や校内案内

2 4校定期戦

宮崎北高校、宮崎西高校、宮崎南高校、そして宮崎大宮高校の県立4校による野球の交流戦。20年度はコロナ禍によって中止となった。例年、全校生徒が吹奏楽部の演奏に乗せて応援合戦を繰り広げ

3 オープンスクール

中学3年生とその保護者を対象とした学校説明会。学校説明や部活動紹介のほか、校内の案内や中学生への学習指導も行うスタッフであるチューターを約100人、1、2年生の各クラスから募集する。チューターの指導は総務委員会が担当。20年度は7月下旬に予定していたオープンスクールを、9月と10月に生徒のみの

4 弦月祭（文化祭）

同校最大の行事。実行委員を募集・選考し、7月から本格的な準備に入り、9月に開催。内容は、クラス対抗の合唱コンクール、各文化部の公演や展示・発表、全校生徒でのシンポジウムなど。例年、多くの地域住民が来校するが、20年度は無観客。短縮プログラムで実施した。

などを担当するチューターは、新2、3年生から募集。意気込みなどを書いたエントリーシートを基に、総務委員会がチューターを選考する。チューター指導や当日の運営も総務委員会が行う。

る。応援指導は総務委員会と応援団が担当する。4校では、生徒会活動に関する交流も行い、行事ごとの生徒会の動きや役員の公約などについても共有している。

参加で実施。県内外から600人以上の中学生が参加した。

総務委員会作成のパンフレット



前例のない状況の中で 他者との協働を経験した

20年3月の臨時休業が始まるコロナ禍でも、総務委員会を始めとする生徒会活動において、同校の校是「自主自律」の精神は十分に発揮された。「私たち第131期総務委員会は、『変幻自在』を活動のスローガンとして掲げました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校行事を例年通りに行うことが難しい状況でしたが、宮崎大宮高校の新しい伝統をつくる機会だと考えました。積み上げたことが一瞬で白紙に戻るともたたくさんありましたが、どうすれば去年に近づけるか、去年を超えられるかを追求し続けました。想定外のこと此起彼伏からこそ、例年以上に様々なケースを想定し、行事の進行も細かく決めて生徒会で共有したところ、合唱コンクールなどでも、全生徒がその企画の流れを理解し、それぞれの役割を全うしてくれたので、スムーズに進行することができました」(岩井さん)

長い歴史を持つ同校の総務委員会の活動の中でも、20年度ほど臨機応変な動きが求められたことはなかった。だからこそ、生徒会活動の成果や失敗を今年度は特に丁寧に検証し、後輩に伝えようとした(写真)。「学校をよりよくするために今すぐにもできることはないか、コロナ禍での生徒会運営における気づきを後輩たちにどう伝えるか、そういったことを考えながら、振り返りに臨んでいました」(岩井さん)生徒会活動を通じて成長を、幹事の迫井さんは次のように語る。「総務委員会の活動を広く知ってもらうために、会報を発刊しました。製作を続ける中で、独善的にならないように、視野を広く持ち、伝え方に気を配ることを意識するようになりました。また、生徒会活動での、学年やクラスを超えて協働する過程で、生徒会活動や課外活動と勉強を両立する人など、尊敬できる仲間と出会いました。自分も忙しさを言い訳にせず、目の前のことに全力を尽くそうと思うようになりました」岩井さんも、同校には生徒同士で協働する中で向上心が育まれていく風土があることを実感している。「みんなが頑張っている様子を見て、私も『もっと自分にできることはないだろうか』と考えたくなりま



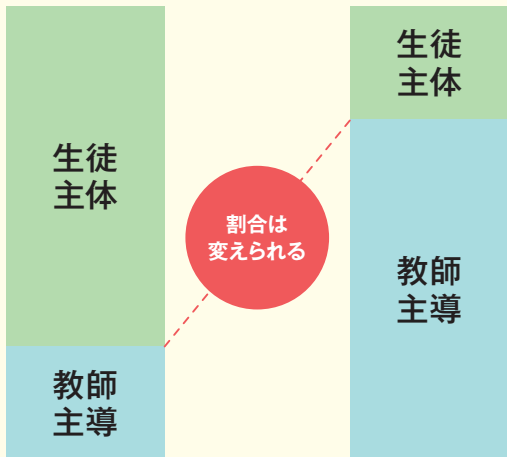
写真 3時間以上、議論を交わし、多様な意見が出された文化祭の反省会の議事録。「引き継ぎが円滑な分、生徒の動きは早く、4月に『文化祭の企画です』と、生徒から提案があるほどです。本校では、行事のことは教師よりも生徒の方が詳しいのです」(川崎先生)

自主自律を理解するための 声かけが必要

生徒会活動における自主自律を実現するために、同校の教師たちはどのように生徒にかかわっているのだろうか。生徒指導主事の渡部祐一先

生は、「自主自律を理解するために必要な生徒への声かけを工夫している」と説明する。「生徒に『個性と我の違いは何だと思う?』と尋ねることがあります。『これがダメ』『こうしなさい』と、生徒の言動一つひとつを指導するのではなく、自主自律とはどのような状態なのか、その答えに自分の力でたどり着けるように、もっと高い視座を育むような問いかけを生徒にすることが教師の役割です」

図 生徒会活動における生徒と教師の関係



生徒主体の割合が大きい学校

教師主導の割合が大きい学校

「生徒に任せただけでは、質のよい自律は実現しません」と、渡部先生は語る。生徒に任せながらも、よい集団をつくるための声かけを教師が続け、気づきを促す。「生徒主体だから迷走することもあります。本校でも、自律を取り違え、服装などの生活規範が乱れた時期がありました。ただ、その時も教師が管理を強めるのではなく、生活委員会の生徒に声をかけ、生徒からの変化を求めました。主体性が尊重される中で自分を律する経験が重要なのです」

*取材内容を基に編集部で作成。

渡部先生のそうした考えは、生徒にも理解されている。

「生徒総会の進め方などを相談した時も、私の質問に答えてくださった後、先生は、『そもそも岩井さんはどんな気持ちになるの？』『どうすればみんなのためになると思う？』などと問いかけ、私がより高い視座で考えられるよう、助言してくださいました。先生たちは私たちを野放しにしているようで、実はよく見てくださっていると思います」(岩井さん)

コロナ禍で様々な活動が制限された中でも、生徒は「自律自律」の精

神を体現し、伝統を引き継いでいったと、生徒会担当の川崎真琴先生は振り返る。

「携帯電話の校内持ち込みについて生徒総会で話し合った時も、自分の希望ばかりを主張しがちな下級生に、『ほかの人の思いを想像しないで持論を押し通そうとするなんて、大宮生とは言えないのではないかと上級生が一喝するなど、学校という社会の中での物事の考え方を生徒同士で示し合っていました。わがままな気持ちで突っ走りそうになった時も、先輩や同級生から気づきを

得て、周りの意見を聞き、他者の気持ちを感じ取れるようになっていくのです。例年よりも少ない準備時間で、携帯電話の校内持ち込みという大きなテーマを議論する生徒総会を円滑に進められるのか心配でしたが、杞憂でした。総務委員会の生徒たちは、きちんと計画を立てて総会を迎え、閉会後には、次の生徒総会への引き継ぎを念頭に、いつものように丁寧な振り返りを行いました」

主体的な生徒会活動を実現するために必要なもの

生徒会活動を通じた生徒の変化を間近に見てきた川崎先生は、「対話を通して自分の思考を深める力など、授業につながる資質・能力を、生徒は生徒会活動を通して身につけている」と語り、生徒会活動がほかの教育活動により影響を与えていることを実感している。自律の実現と資質・能力の向上が有機的に結びついているからこそ、宮崎大宮高校は県内有数の進学校としての歴史を積み重ねてきたのだろう。

「丁寧な声かけを繰り返し、自分のあり方を考えさせることで、どの

学校の生徒も必ず主体的になっていく」と確信する渡部先生は、その基本スタンスは他校に赴任しても変わるものではないと語る。

「どの学校の生徒会活動にも、生徒主体の活動と、教師主導の活動があり、その2つの比率が違うだけです。重要なのは、その比率は教師の生徒への接し方で変えることができるということです。教師主導の活動が多い学校でも、『君たちは絶対にできる、伸びる』と声をかけて、教師が指導のバランスを変えていけば、生徒は変わります。『うちの生徒は変わらない』のではなく、教師が今までのやり方を変えられないだけだと、私は思っています」(図)

宮崎大宮高校の生徒手帳には、生徒会活動の意義は「爽やかな学校生活を実現するため」と記されていると、迫井さんは教えてくれた。

「爽やかな学校生活を目指して他者のために活動すると、周囲から自分にもよい影響を与えてもらえることが分かりました。私は、自分のためではなく、社会のために何かを残そうとするのが人生なのではないかと、生徒会活動を通して学びました」(迫井さん)